

第27回 熊野灘の漁業を考える
「三重県のブランド水産物の現状と課題」

日 時：平成30年2月17日（土）13:00～17:00（受付12:30～）
場 所：三重県漁連のり流通センター3階会議室（松阪市中央町465-1）
共 催：一般社団法人水産海洋学会、熊野灘漁業を考える会、三重県水産研究所
後 援：三重県漁業協同組合連合会
コンビナー：伊藤宣毅（考える会）、山川 卓（東大院農）、津本欣吾、舘 洋（三重水研）

【プログラム】

1. 挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会会長） 13:00～13:10
伊藤宣毅（考える会代表）
2. 趣旨説明：遠藤晃平（三重水研） 13:10～13:20

座長：土橋靖史（三重水研）、水口忠久（考える会）
3. 基調講演
記録にみる熊野灘の水産物 13:20～14:00
平賀大蔵（鳥羽市立海の博物館）
4. 話題提供
(1) 漁獲量日本一を守る：和具地区のイセエビ漁業者の取組 14:00～14:25
中村龍司、小磯幸保（三重外湾漁協）、丸山拓也（伊勢水産室）
(2) 生産量日本一を誇る三重県ヒトエグサ（青のり）養殖の現状と課題 14:25～14:50
岩出将英（三重水研）

(休憩) 14:50～15:05

座長：藤田弘一（尾鷲水産室）、平山 厚（考える会）
(3) 地域ブランド「安乗ふぐ」を支えるトラフグ資源の現状と資源管理 15:05～15:30
岡田 誠（三重水研）
(4) 新たな枠組「漁業と観光の連携」による地域水産物のブランド化 15:30～15:55
森田 透（鳥羽磯部漁協）
(5) 「伊勢ひじき」のブランド維持に対する現状と課題：加工・流通からの視点 15:55～16:20
北村裕司（北村物産株式会社）
5. 総合討論
座長：山川 卓（東大院農）、津本欣吾（三重水研） 16:20～17:00

開催趣旨：三重県は約1,000kmに及ぶ長い海岸線を有し、地形環境の変化に富んだ沿岸域では、多様な漁業、養殖業が営まれている。そこで漁獲・生産される多様な水産物の中には、三重県を代表するブランド水産物として、全国的に認知されているものも多い。また、近年継続する魚価安の状況下、ブランディングによる価値の向上の取組も各地で進められている。しかしながら、資源量や来遊量の減少、他県における生産量の増加や効果的なブランディングにより、ブランドとしての地位の維持が危ぶまれるものも少なくない。さらに、近年では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会への食材調達基準にみられるように、資源管理による持続性や生産工程管理による安全性の担保された食材等、新たな価値の付加への対応も必要となってきた。本研究集会では、県を代表する水産物を例に、ブランドの創出、維持における課題を抽出整理し、漁業者、行政担当者、研究者等の関係者間で情報共有を図るとともに、今後取り組むべき方策を検討する。